

東北管内の陸閘例



写真(左)は、治水対策で、堤防と堤防の間に設置された陸閘。閉鎖の際に必要な人数は2人程度で、金属製の板三枚をはめ込み、約10分で閉鎖できる

写真(右)は、治水対策で、遊水地堤防の内外をつなぐ市町村道に設置された陸閘。閉鎖の際に必要な人数は10人程度で、交通整理や閉鎖操作(自動・遠隔)を行い、約20分で閉鎖できる



東北管内の事例

● 河川管理者(県)、委託先(市)、再委託先(消防団)の間で、具体的な閉鎖のタイミングの明確化がされていなかったもの

- ・県は、具体的な操作タイミングは現場の状況を判断する委託先・再委託先に委ねる
- ・市は、閉鎖の判断・指示する(場合により再委託先の消防団が判断)ことは承知しているが、その旨を明確化した文書はなく、慣例的に運用。観測設備がなく、閉鎖の判断に難しさ

● 河川管理者(県)、委託先(市)の閉鎖の合同訓練に再委託先(消防団)を参加させていないため実践的となっていなかったもの

- ・合同訓練では、閉鎖時間は28分であったが、市の職員からの消防団への連絡や操作員の招集等に要する時間が考慮されていない
- ・実際の閉鎖では、過去の最短津波到達時間に基づき64分以内のところ、完了までに60分程度

● 操作員の高齢化により確保が難しいことについての意見

- ・東北地方整備局では、地域の過疎化・高齢化から操作員の確保が難しくなりつつあるとの意見
- ・調査した消防団からは、高齢化により操作員が少なくなっており、操作も体力的に難しい、即効性のある有効な対策が見いだせないとの意見

国土交通省への勧告事項

- 閉鎖操作について、関係者間で認識に差異が生じることがないように、操作基準を明確化した運用ルールを作成すること
- 閉鎖訓練について実践的な訓練等を実施すること
- 陸閘の利用状況等を踏まえ、廃止等を検討すること